

第26回IAOPA世界大会は南アフリカ共和国ケープタウン市近郊のカンファレンスセンターにて4月10日より16日まで開催され、加盟国26ヶ国より160名の代表とその家族が出席いたしました。AOPA-JAPANからは、今橋会長、山縣副会長、畑仲の3名が出席し、会期中、各国の代表と意見を交わし、また、国際交流に努めてまいりました。

今回もAOPAフィリピンのアムラオ会長夫妻、ロア理事夫妻、AOPA韓国のLee会長とアセアングループは揃って出席、アメリカ本部はじめ各国代表の方々と友好を深めてまいりました。また、今回中国より4名の代表が出席、中国ではAOPAは政府の関係機関として作られた様で、代表もパイロットではなく政府関連の人々でした。次回は北京で開催したい、と正式に申し出がありました。

初日、開会式に引き続き、今橋会長、山縣副会長による昨年の東日本大震災に対する各国からのお見舞いへの御礼と、津波に襲われる仙台空港の被害状況等の報告を映像を通してプレゼンテーションを行いました。出席されていた皆さんは改めてTsunamiの恐ろしさを認識されていた様でした。

最後の夜のサヨナラパーティーの席上、IAOPAフラール会長より山縣副会長が長年のIAOPAへの貢献に対して表彰され、出席した世界中のAOPAパイロットから大きな拍手を贈られました。実際、山縣副会長は、その日本人離れした大らかな人柄から国際AOPAの中で「AriAri」と各国のパイロットから慕われ、ワシントン本部からも頼りにされています。山縣副会長、本当にあめです。これからもIAOPA、そしてAOPA-JAPANのためによりよく願っています。(事務局 畑仲記)



REPORT

国際 AOPA 世界大会 @ 南アフリカ

AOPA-JAPAN 副会長 山縣 有徳



世界大会出席の右から山縣副会長
今橋会長、畑仲事務局長

この度南アフリカケープタウンで開催されたIAOPA世界大会に今橋会長、畑仲事務局長と共にAOPA-Japanを代表して参加して参りました。

した。

NRT-DXB(Dubai)-CPTのエンルートを少しご紹介すると、エミレーツ航空EK319(A6-ECH,B777-300ER)はNRT RWY34L T/O22:18L 強い西風135ktの中、FL340で鯖江-北京-チベット-ペシャワール-ホルムズ海峡を飛行して11時間後DXB(OMDB)R/W12L 04:14Lに着陸、巨大なショッピングモールのようなエミレーツ専用ターミナルで約4時間の待ち合わせの後、EK770(A6-EML,B777-200)DXB RWY30R T/O09:10L FL380でほぼ南南西のコースでアラビア海、インド洋沿いにアデン湾-ソマリア半島-タンザニア-ジンバブエ飛行して9時間半後のCPT(FACT)RWY19 16:10Lに着陸、第2レグは昼間の飛行でずっと快晴の為荒涼たるルプアルハリ砂漠、真っ青なインド洋、緑豊かなアフリカ大陸が眼下に広がり美しい地球の雄大さを実感しました。

閑話休題、今回の世界大会会場はケープタウンの東約30Km,Stellenboschという郊外のぶどう畑に囲まれたリゾートホテルSpier Hotelで、4/10到着後の夕方からAOPA-South Africa主催の歓迎レセプションが行われ、各国代表団の面々と2年ぶりの

再会を喜び合いました。

第1日目、IAOPA-South Africa会長Dr.Koos Maraisの開会挨拶、南アフリカ政府報道官の歓迎の言葉、ICAO事務総長のビデオメッセージ、南アフリカ航空局長Mr.Zakhele Thwala氏の挨拶、IAOPA Craig Fuller会長の「GAの目指すもの」というスピーチに引き続き「東日本大震災・津波によるGA被害とAOPA-Japanによる救援フライト」と題して今橋会長作成のパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行いました。

仙台空港の津波の映像やAOPA-Japan会員機による救援フライトの様子を紹介し、また震災時に各国AOPAからお見舞いの言葉やメールを多数頂き、それらに対する御礼もAOPA-Japan全会員を代表して述べたところ、出席の各国代表団の皆さんは大変感銘を受けられたようで大きな反響がありました。

午後からBusiness Sessionが始まり、第1 sessionは「Airspace-Allocation and Use(空域割当てとその使い方)」という議題で討議し、その後皆様お馴染みのキングスクール代表John and Martha King夫妻が「安全飛行」についてまさにビデオと同じようにピッタリと息の合ったトークを披



Stellenbosch Flying Club 主催の格納庫でのディナーパーティー

露し大喝采を浴びていました。

第2日目、第2sessionは「Regulations」という議題で「規則」を如何にうまく我々自身のために活用するかを討議しました。

その後、AOPA 航空安全研究所々長 B. Landsberg 氏が「航空安全」について講演しました。氏はAOPA Pilot誌に毎号「航空安全」についてコラムを担当しているの顔と名前を知っている方も多いと思います。

第3sessionでは「Fees and Charges」という議題で各種利用料金、諸経費を如何に管理するか、またその正当性について討議しました。

第4sessionでは「Airports」と言う議題で、騒音問題、空港閉鎖にどのように対処し如何に地域の活性化につなげて行くかを討議しました。

第5sessionでは「Working Together for Common Purposes」という議題でGA発展のために各国が如何に連携をとって協力して行くかを話し合いました。

その後、全員でバスに乗って15分ほどの地元GA飛行場 Stellenbosch Airfieldに向かい、ランプにズラリと並ぶ飛行機を見ながら暮れなずむ田園地帯と遠くの山々を背景に皆思い思いにグラスを傾けつつ文字通りハンガートークに花を咲かせました。

この Stellenbosch Airfieldは長さ1,000mの舗装滑走路RWY01/19と並行誘導路を持ちVASIもついた

大変立派な当地の Flying Club所有の私設飛行場です。

日もすっかり暮れ夜の帳に覆われた頃、隣接のハンガー内で Stellenbosch Flying Club主催のディナーパーティーが開かれ、今回の世界大会の設営にご協力下さった各メンバーの方々が紹介され、和やかかつ賑やかなパーティとなりました。

第3日目は「CRM for the single pilot」と言うテーマでAOPA-South Africa, Koos Marais会長が講演しました。

その後、IAOPA World Assembly 2012 Cape Town Resolution案が提案され、それらに対する審議の後採決に移り26項目が採択されました。

その中の11番目としてAOPA-Japan提案(細谷理事原案作成)の「小型航空機とパーツの型式証明の相互承認」がResolutionとして採択されました。

以下にその抜粋を原文のまま掲載致します。

Resolution 26/11

Universal Acceptance of Aircraft and Parts Certification

Weheras: the lack of universal acceptance for ICAO Annex 8 certification of aircraft and replacement parts for aircraft with a MTOM less than 5,700kgs artificially drives up the purchase price for these items among

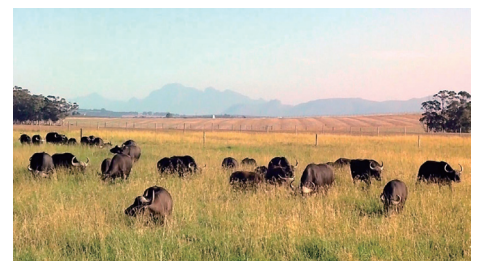
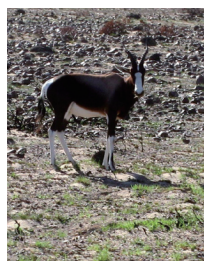
States; therefore IAOPA, at its 26th World Assembly, resolves to emphasize that IAOPA affiliates will work with their national aviation authorities to increase acceptance of other States' certification of aircraft and parts for aircraft with a MTOM of less than 5,700kgs.

以上でBusiness Sessionは全て終了し、夜は近くのワイナリーでワインパーティーで大盛り上がりでした。

第4日目はアフリカ大陸最南端の喜望峰にでかけ、眼下にインド洋と大西洋がぶつかり合う様子が見てとれました。

夜はGala PartyでFuller会長が閉会を宣言し2年後の北京大会での再会を約して無事終了しました。

その席上AOPA-Japanの永年の貢献に対する表彰楯を不肖私が全会員を代表して頂きました事を申し添えて私のW.A.参加報告と致します。



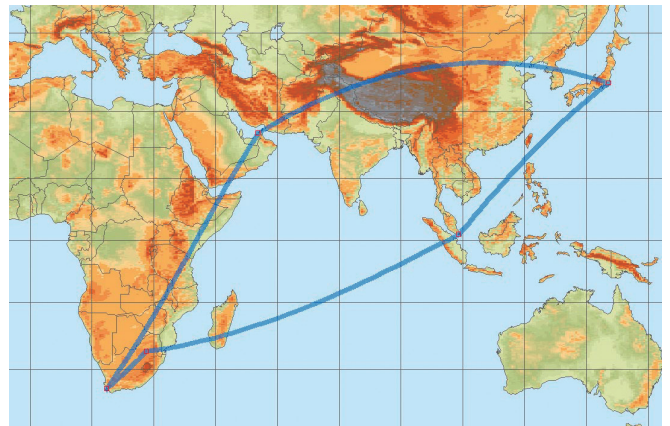
Stellenbosch 周辺はワイナリーを中心とした正にヨーロッパの雰囲気ですが、しかしここはアフリカです。周辺には色々な野生動物が出没します。 左から、駝鳥、インパラ、バブーン(ヒヒ)の家族、アフリカバッファロー



2012 年度 IAOPA 世界大会は日本から最も遠い国の一つ南アフリカのケープタウン郊外 Stellenbosch, にある SPIER Hotel で開催されました。ここはワイナリーが所有するホテルで、大きな会議場もあります。



広大な敷地内に点在する建物の一つが会議場です。

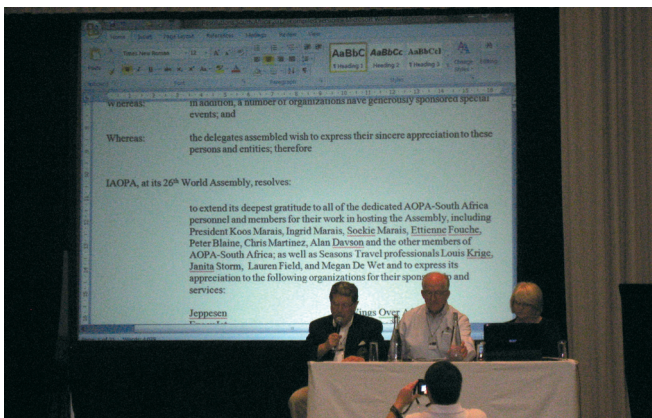


日本から会議が行われるケープタウンまで、ドバイ経由で 8,430nm、シンガポール経由で 8,250nm どちらを経由しても世界一周 21,600nm の 40% 近くを乗り継いで飛行します。

開会式のあと、AOPA-JAPAN は特別に時間をもらい、昨年 3 月 11 日に発生した大地震、大津波に世界中から寄せられた救援活動に対する感謝の言葉を述べ、特に仙台空港で飛行機が津波に流される映像を披露しました。



仙台空港の滑走路を津波が襲い、次々と航空機や車が流されていくビデオを食い入る様に見ている各国代表。



会議は、前以て電子メールで議論された結果を基に用意された Resolution の説明(左)と、個別の質疑応答後賛否を問う形で進められました(右)。賛否は 1 国 1 票なので国旗を持って挙げられた手だけが有効です。





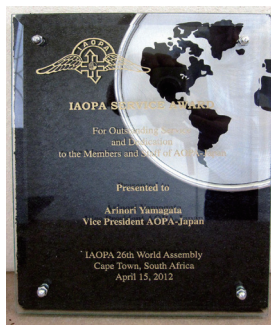
会議に先立ち ASEAN 各国代表が記念撮影、右より李 韓国会長、アマラオ フィリピン会長、ドリス オーストリア代表、畑仲、今橋会長、フィリピン ロア理事、ひとりおいて山縣副会長



会議の合間、全員で記念撮影（見えない人が沢山居ます）



長年の AOPA への貢献に対して山縣副会長が表彰されました。Fuller IAOPA 会長と、



山縣副会長に授与された盾です。



帰路、機窓より撮影した喜望峰です。右の海が大西洋、左はインド洋です。



会議最終日の夜は さよならパーティーです。皆、正装して出席します。中央が南ア会長夫妻と令嬢。



会議の合間、各国代表は周辺の観光にも出かけました。歴史で有名な喜望峰を訪れた各国代表の一部。



1944年に作られたイギリスのジェット戦闘機 Vampire Stellenbosch flying club に保存してありました。



会期中、ステレンボッシュフライイングクラブが夕食会に招待してくださいました。



ここには多くの会員機が並んでいます。Stellenbosch flying club では滑走路と格納庫を持っています。